

令和6年度の事後調査実施状況

鳥取県東部広域行政管理組合では、可燃物処理施設整備事業について環境影響評価を実施し、現在事後調査を行っています。

令和6年度に実施した事後調査の概要は、表1に示すとおりです。

表1 令和6年度に実施した事後調査の概要

事後調査項目		事後調査の内容	調査結果と基準等の比較
環境要素	調査項目		
大気質	二酸化硫黄 二酸化窒素 浮遊粒子状物質 塩化水素 水銀 ダイオキシン類	調査時期：各季7日間測定 [夏季]令和5年7月23日(日)～29日(土) [秋季]令和5年10月3日(火)～9日(月) [冬季]令和5年12月7日(木)～13日(水) [春季]令和6年5月14日(火)～20日(月) ※令和6年度は春季調査のみ実施 調査地点：環境影響評価時に現況調査を行った地点等の計14地点 ※14地点には要配慮施設5地点を含む。 調査方法：環境省のマニュアル等に準拠した方法	調査結果（夏季、秋季、冬季及び春季）は、全調査項目、全調査地点で環境基準等を満足していました。
動物	鳥類の生息状況 調査対象種： オオタカ ブッポウソウ トラツグミ	調査時期：令和6年4、5月、令和7年2、3月（各月2日間実施） 調査範囲：対象事業実施区域敷地境界から約1.5kmの範囲 調査方法：主に鳥類の姿や鳴き声から種を識別して種名、個体数を記録する方法	令和6年度の調査を通して、トラツグミが1回確認されましたが、オオタカ及びブッポウソウは確認されませんでした。
	サンインサンショウウオ ^{注2} の生息・産卵状況	調査時期：令和7年2月17日(月)、18日(火) 3月17日(月)、18日(火) 調査範囲：個体等の移殖地を含む対象事業実施区域敷地境界から約0.2kmの範囲 調査方法：移殖地等を任意に踏査し、確認された個体数、卵のう数を記録する方法	調査範囲において成体23個体、幼生20個体以上、卵のう75対が確認されました。
	イモリの生息状況	調査時期：令和7年2月17日(月)、18日(火) 3月17日(月)、18日(火) 調査範囲：個体の移殖地を含む対象事業実施区域敷地境界から約0.2kmの範囲 調査方法：移殖地等を任意に踏査し、確認された個体数を記録する方法	調査範囲において成体101個体が確認されました。

注) 1. 大気質の事後調査は4季実施する計画とし、令和5年度に夏～冬季の調査を実施しました。令和6年度は、残りの春季調査を実施したものです。

2. 環境影響評価書では「カスミサンショウウオ」とされていた種が、平成31年2月に9種に細分類されました(Matsui et al., 2019)。本論文に示される分布情報によると、対象事業実施区域周辺にはサンインサンショウウオが生息していると考えられます。そのため、施設供用後の事後調査では、「サンインサンショウウオ」と呼称しています。

<令和6年度の事後調査の主な実施状況写真>



大気質調査(測定車による調査)



動物調査(鳥類)



動物調査(サンインサンショウウオ・イモリ)



サンインサンショウウオ確認個体・卵のうの一部



イモリ確認個体の一部



確認されたサンインサンショウウオ卵のうの一部